

教室(診療科)紹介 (91)

微生物・感染症学講座のめざす方向性

微生物・感染症学講座

教授：舘田一博(感染病態・治療学分野)
石井良和(感染制御学分野)

平成23年4月より東邦大学医学部微生物・感染症学講座を担当させていただき3年が過ぎようとしている。昨年には石井良和先生に感染制御学分野の教授になっていただき、これからの10~15年の基盤がようやく固まりつつある状況である。桑原章吾先生、五島瑳智子先生、そして山口恵三先生が築かれた歴史ある教室をいかに発展させられるか、また世界で活躍できる次世代の感染症医・研究者を輩出させられるか、が私たちの使命であると考えている。

教授就任時に、教室運営に関して3つの目標を立てた。1つはトランスレーショナル・リサーチの促進。これは本講座の中心的テーマであり、特に“臨床医にとって面白い基礎研究”を目標としてきた。目の前の患者さんの中にある疑問をヒントに研究テーマを見だし、その中の真実を明らかにするための研究を展開する。難しい基礎医学で終わらせるのではなく、臨床からスタートして臨床にフィードバックできる基礎研究をめざす。このテーマのもとに若い医師が集い、大学院生・研究生として研究に参加してくれていることを大変うれしく思っている。

2つ目の目標は学際的研究の展開。今日、感染症を取り巻く状況はますます複雑化し、新しい耐性菌が次々に出現する中で抗菌薬の開発は遅々として進まない状況となっている。このような中で、医学領域だけでなく、薬学・理学・農学・工学などさまざまな分野の方々との情報交換・交流を通して、学際的な視点で研究を展開することを考えている。異分野の情報、発想の転換、その融合と新しい応用……その先にブレイクスルーにつながる研究が展開されること



を期待している。この点で本学は、薬学部、理学部、看護学部を有するというアドバンテージを有している。この特徴を生かして“All Toho”で研究が展開されれば、これまでにない新しい成果が生まれるものと確信している。

3つ目は国際化の促進。本学は英語教育を含め、国際化に積極的な大学の1つである。世界で活躍できる人材、国際学会でアピールできる研究者の育成を本講座の目標の1つに掲げた。いつの日か、本学・本講座から世界をリードする感染症医・研究者が育ってくることを楽しみにしている。

上記3つに加え、昨年から4つ目の目標を加えさせていただいた。それは、臨床へのさらなる貢献である。今日においても原因病原体の特定できない感染症は多数経験される。原因病原体が判明すれば、より効果的な治療が可能になり、また副作用の減少や耐性菌抑制、さらには医療費の削減にもつながるはずである。この目的を達成するために次世代シーケンサーによる病原体の全ゲノム解析法を導入した。現在、大森病院の心臓血管外科(渡邊先生)、脳神経外科(周郷先生)、呼吸器内科(本間先生)との連携の中でその有用性を試みようとしている。将来的には、全科からの検体を受け入れられるような仕組みを検査部の盛田先生と相談しているところである。また、臨床への貢献の一貫として地域医療機関との連携も重要である。現在、「地域連携感染症症例検討会」を毎月第4月曜日の夕方に開催しているが、それ以外に「薬剤師のための微生物・感染症研究会」(年2回)、「東邦地域連携感染制御研究会」(年2回)などを立ち上げた。平成24年度診療報酬改定での院内感染対策加算を追い風に、さらに地域との連携・ネットワークを強化し、感染症診療の向上につなげて行ければと考えている。

(教授：舘田一博)